

秋田遠景近景

日銀秋田支店長コラム

「仕事もちろん重要だけど、秋田にはいろいろな『本物』があるから、楽しんでくるといいよ」と秋田経験者の先輩から送り出され、その言葉の意味をじっくりとかみ締めている。手頃なところでは豊富な旬の食材、大地の恵みを昇華させたような珠玉の日本酒、そして各地域を彩るさまざまな祭りや多様な自然を堪能し、文字通りあつという間に赴任から2カ月が過ぎようとしている。

こうした「本物」を知らずにいた自身の不明を恥じるばかりだが、初回となる本稿では中でも最も感銘を受けた夏祭りを取り上げたい。

まず土崎港曳山まつり。かのイザベラ・バードも『日本奥地紀行』で言及した勇壮な曳山行事は、土崎神明社での例祭がそもそもの源流であることを知った。花輪はやしも地元の総鎮守である幸稲荷の産土神にささげる祭りであり、地元の厚い信仰

「本物」の祭り

心に支えられている。竿燈では妙技の根源に五穀豊穡が願われ、一糸乱れぬ西馬音内盆踊りも先祖の霊や亡者の安寧を願う気持ちの根底にある。

竿燈終了時の雨は観光の盛り上がりには水を差したが、現地にいた見物客の一人としては水不足が不安視されていた中で慈雨のようにも感じられる一幕であった。かように、県内の祭りは神事や人々の信仰、想いとともにあることで「本物」たりえて

内在する精神性に感銘

いるとの印象を強くしている。いずれの祭りも、時代の経過や国の重要無形民俗文化財・ユネスコ（国連教育科学文化機関）による無形文化遺産指定を経てさらに洗練され、本県の夏を彩る目玉の観光行事となつてい

る。こうした行事を通じて、県も掲げる国内外での知名度向上につながるれば、今後の交流人口の増加や定住人口の反転にも資するはずだ。

そうした有用性を存分に認識しながらも、これらの祭りの本来の価値を同時に守り伝えていくことの難しさも感じさせられた。担い手不足はどの祭りでも課題だと同じ、過度な商業化は祭りの源を支える信仰や想いと両立しないこともあるだろう。

て各祭りの深い精神性に触れたことで、関係者によるこれまでのさまざまな努力をろくに知らないまま、にわか秋田の価値を守れ！と叫びたくなっているだけかもしれない。

今年の竿燈まつりの入場者数は103万人と、昨年より19万人の減少となったと聞く。曜日の並びや天候もだが、タイパの極みのような万博が大阪で開催中なのが影響したのではないかと。竿燈や横手のかまくら、大

つている面もあるだろう。

ただ、祭りを支える地元の方々と話をさせていただき、初めて各祭りの深い精神性に触れたように感じた身からは、やはり秋田の「本物」を体験するなら、切り取った一場面や短時間の動画だけではなく、ぜひ現地を訪れてほしい、と強く思う。首都圏からも、関西圏からも、あるいはインバウンド（訪日客）にとつても、相応に時間距離があるゆえに、独特の信仰や文化が色濃く残った秋田の祭りは、まさしく世界の人々の遺産そのものである。

本県ではオーバートーリズムはさほど大きな問題とはなっていないものの、神事や地元の方が大切にしているしきたりに、県外や海外の観光客が無知ゆえに押し入ってくるような事態にならぬよう、適切な線引きも必要だ。かくいう私も、今回初め

曲の花火といった本県の「本物」が出張して好評を得たことでも知られるが、さまざまな国・地域の名物・名品が並んで陳列される中では、他の製品との比較で若干埋没してしまい、宣伝効果の発現にはおそく時間がかかるだろう。

見栄えのする秋田の祭りを配信する動画も増えている。その

気になれば、当地を訪れずとも、自宅からほぼ無料で同時配信を楽しめる時代だ。そうした技術の発展が、観光客減少につながる



たねむら・ともき 東大大学院総合文化研究科修士。98年日銀入行。ロンドン事務所、金融機構局参事役などを経て、25年6月から秋田支店長。52歳。鹿児島県出身。

日本銀行秋田支店の種村知樹支店長が、本県経済をさまざまな視点から分析し、提言します。

〈随時掲載〉